

復興庁・内閣府主催シンポジウム

「熊本地震からの復興を考える  
～これからのコミュニティ再生を中心に～」

いのちを守る視点  
～熊本地震と東日本大震災～

福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター  
天野 和彦

**FURE** うつくしまふくしま未来支援センター  
Fukushima Future Center for Regional Revitalization

# 今後予測されている 災害時における避難者数

|        |       |
|--------|-------|
| 東日本大震災 | 約50万人 |
| 熊本地震   | 約18万人 |

|          |        |
|----------|--------|
| 首都直下地震   | 約700万人 |
| 南海トラフ大地震 | 約950万人 |

**東日本大震災**

**福島避難所はどうだったか**

# ◆震災のツメあと

・何もなかったまち    ・え～道路？それとも海？



福島県相馬市：2011年3月18日撮影

# ■福島県の二重のくびき

・地震、津波 ・原子力災害

※被災地（原発立地周辺）に住むことができない

復興どころか復旧のスタートラインにさえ立てない？



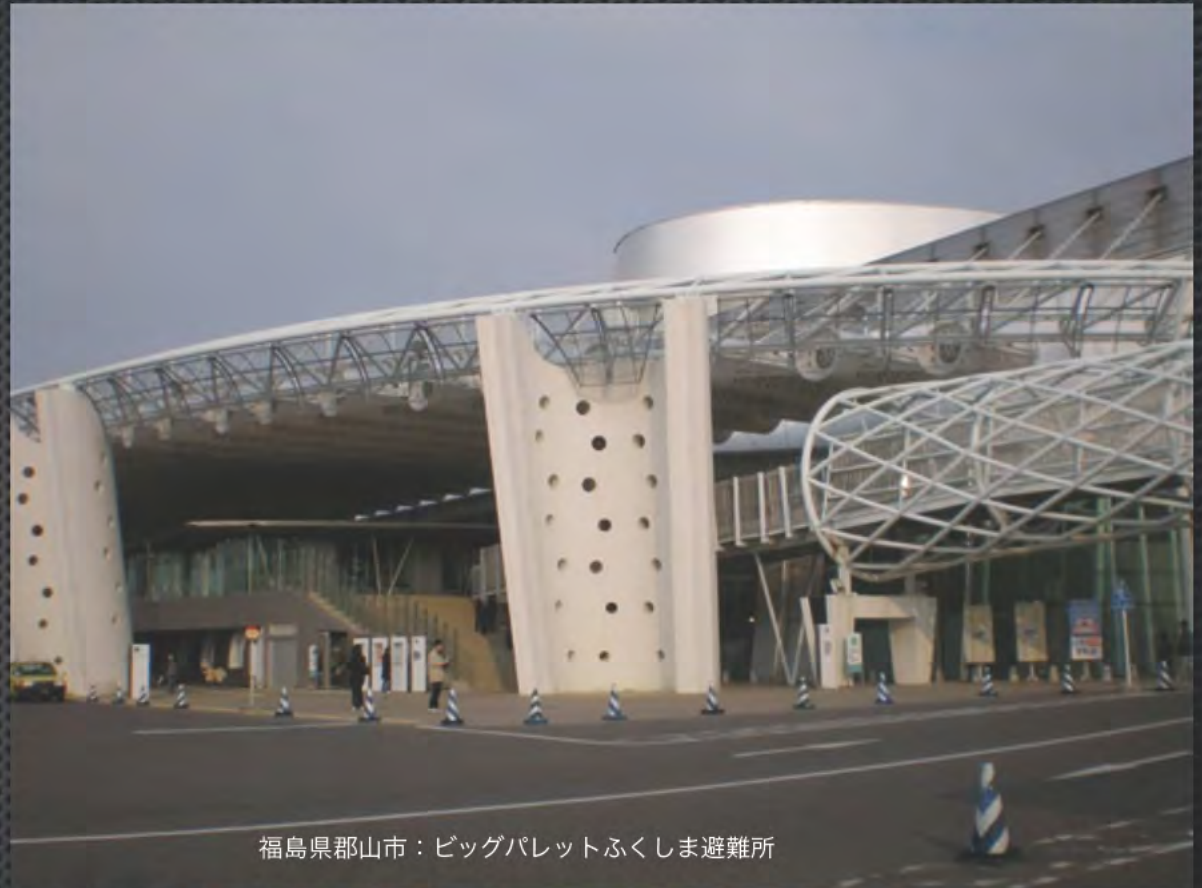
心の復興、人間の復興

# ■ 被災者2500人以上が 「ビッグパレットふくしま」避難所へ

避難者の入所は3月16日深夜にまで及んだ。

福島は雪が降っていた。避難後、約1カ月後には、

**人が死ぬかもしれない**という状況に追い込まれた。



福島県郡山市：ビッグパレットふくしま避難所

ビッグパレットふくしま避難所内部：2011年4月18日撮影



ビッグパレットふくしま避難所内部：2011年4月18日撮影



# ■ 混沌期の取り組み

## 生命を守る基礎づくり

避難経路図作成

・ 4月11日段階で未作成

いのちを守る名簿づくり

- ・ だれが
- ・ どこで
- ・ 何を課題として
- ・ どんなふうにご経過しているのか

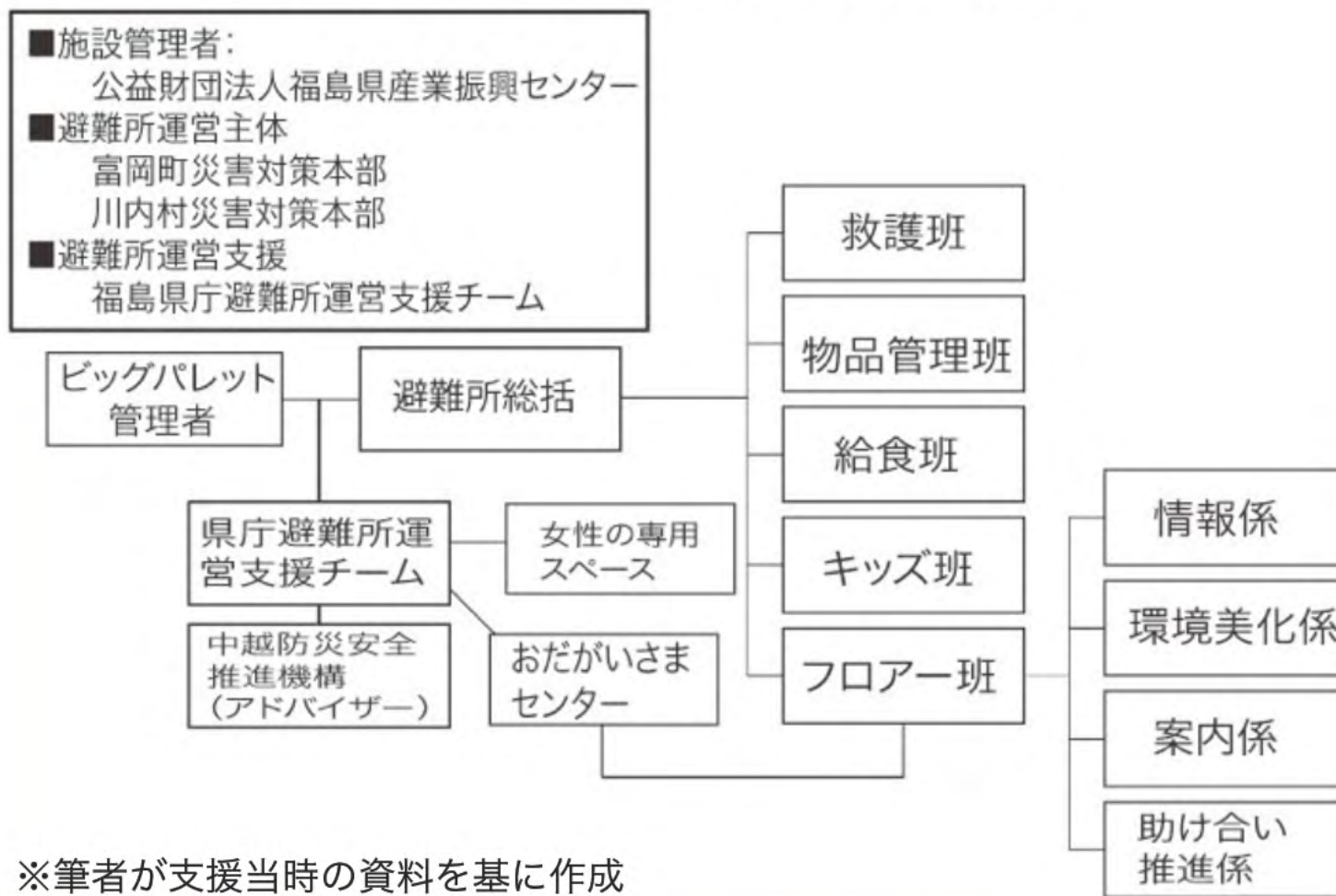
※混沌期：被災者支援の視点で、運営支援に入った時点から被災者の実態をつかむまでの期間

# 生活基盤期の取り組み

## 運営側の体制の再構築

- ・情報の共有
- ・組織の見直しと改変

ビッグパレットふくしま避難所の運営組織図(最終)



※筆者が支援当時の資料を基に作成

※生活基盤期：実態から課題を抽出し生活基盤を確保するまでの期間

# ■ 自治萌芽・形成期の取り組み



Bホール自治会準備会風景



ビッグパレットふくしま避難所内  
Bホールに設置した間仕切り



ビッグパレットふくしま避難所夏祭り風景

※自治萌芽・形成期：被災者が避難所運営の役割を担おうとする時期



## 女性の専用スペース

おだがいさまFM



## ★ 畑しごと隊出動しました

第4号でもお伝えした鈴木グリーンファーム・岩瀬農業高校で作付した野菜たち。夏の強い日差しを乗り越えて、沢山の実をつけ始めていました。これからもたくさんの実がなるように、畑しごと隊の皆さんが一生懸命お世話をしています。

広い畑に一面の緑。暑いながらも心地よい時間を過ごせたのではないのでしょうか。

次の作付に向け、畑ごと隊のメンバーを募集する予定です!



畑しごと隊

# ビッグパレットふくしま避難所 「女性専用スペース」とは

Q: いつ使えるの?

A: 毎日朝9時から夜9時まで使えます。  
(女性のスタッフがいますときも使えます)

Q: どんなふうに見えるの?

A: ●着替え、脱衣、お化粧するとき  
●身体を洗いたいとき  
●お子さんの夜泣きがひどいとき  
●男性の目が気にならない場所  
で休みたいとき  
●おしゃべりしたいとき  
などにどうぞ。

Q: 子どもも入るの?

A: もちろん入れます。  
小中学生等年々らいまでの男の子も  
保護者の女性といっしょに入れます。

Q: 場所はどこにあるの?

A: 1階の多目的展示ホール(B)の奥にあります。  
案内図をご覧ください。



男性は  
立ち入り  
をご遠慮  
します。

女性専用スペース

オープン  
しました。

女性たちの「着替える場所がない」「男性の目が気になる」といった声から、避難所内にできた女性専用の部屋。  
県庁避難所運営支援チームが設置し、県男女共生センターと郡山市内の女性団体が連携・協力して支援を行ってきた。

## ★目的 1

女性の安心・安全を守る

## ★目的 2

女性同士の交流の場の提供

県男女共生センターより資料提供

# 支援者の仕事

最高の使命とはなにか…

**いのちを守る**

どうやって守るのか??

**人と人がつながるしくみ**

そのためにどうするか??

**交流と自治**



# ■災害時の避難所運営における視点

## 住民に寄り添う視点

加えて

「想像力」「企画力」「実行力」

「調整力」「確信に裏打ちされた楽観性」「判断力」

- ① 被災者の実態や課題を的確に把握する。
- ② 被災者の声を集約し、生活環境の改善に向けた調整をする。
- ③ 被災者が交流できる場を保障する。
- ④ 自治的な組織を確立し、被災者の参画で取り組む。
- ⑤ 地域における専門機関や団体等とのネットワークを活用し、避難所内の課題解決にあたる。

## ■ 「災害時要配慮者」への具体的支援

- ・ 女性の専用スペースの誕生・・・女性への支援
- ・ おだがいさまFMの誕生・・・高齢者、視覚障害者
- ・ 畑隊の誕生・・・生活不活発病、生きがい対策



**避難所と「専門機関等」との協働**

# ■ 災害復興と市民活動

## ▲ 東日本大震災における教訓

- ・ ・ ・ 住民間のつながりが深い地域ほど災害に強い
- ・ ・ ・ その地域が平時より準備している以上のことはできない
- ・ ・ ・ それまでの地域課題が顕在化する

それらを超えていくには…

地域の自治活動を高めること＝地域力の高まり

「地域の総合力」が「持続可能な社会」を実現させる

復興 ・ ・ ・ 社会の持つ脆弱性の克服 ➡ 社会変革

# **それらを背景に 熊本地震をみると…**

**— 東日本大震災の教訓は活かされたのか —**

# 熊本地震における3つの教訓と特徴

- ・避難所の自治(自主運営)が言われるようになった  
東日本大震災の教訓として、避難所の自治がクローズアップされたが、こうした教訓が熊本地震において一定反映された。



益城町「広安小学校避難所」での住民等が食事を配布



益城町「広安小学校避難所」交流の場の開設に向けて

# 熊本地震における3つの教訓と特徴

## ・市民活動団体との連携・協働が進んだ

これまでの災害で、中間支援的な活動と専門的な活動を展開してきたJVOADなど市民活動団体等と行政がしっかり結びついて支援基盤を構築しようとしてきた。



JVOAD「火の国会議」毎日19時から熊本市内で開催



「熊本市・市社協・NPO等連携会議」週2回熊本市役所で開催

# 熊本地震における3つの教訓と特徴

- ・一般避難所の中に合理的配慮に基づきスペシャルニーズエリアができた

熊本学園大学避難所において、人的資源や施設の持つ機能を最大限に活かし、障がい者などの要配慮者を積極的に受け入れた。



「熊本学園大学避難所」における取り組み

熊本地震のフェーズが変化することで  
起こることが想定される課題について

## 応急仮設住宅におけるコミュニティ形成

避難所での自主運営（自治）が築かれても、仮設住宅に  
移動することによって、再度、コミュニティ形成が必要  
になる。

東日本大震災における課題と類似する課題の発生

男性が外に出てこない



震災関連死

交流と自治がいのちを守る

※避難所での自治をしっかりと→ 形だけの自主運営ではダメ

# 福島における コミュニティ形成の課題

(熊本での取り組みにもふれて)

# ■ コミュニティ再生をどうすすめるか

「女性、障がい者、高齢者、若者、外国人」等すべての人



が参画できるコミュニティ

福島県警へのDV相談件数は64%増 (2012年)



相談等の事後サポート策はもちろん、女性や若者の就労支援など、  
困難に陥る前の暮らしの底上げに関わる対策が必要

状況改善のために



県民（要配慮者等）の実態調査を

経済力や発言力がなく、自立を選択できない女性が多いのが内情。

また震災後の就労も、復興関連の一時しのぎの仕事が多く、生涯の貧困が目される女性や若年層も目立つ。

早急に実態把握のための統計調査が必要。

実際に彼女・彼らは声をあげにくい存在だけに、その実態が把握されないのも施策上の課題。

# ■ 被災地におけるコミュニティ形成

- ・ 「交流」の場の提供と 「自治」活動の促進



- ・ 「生命を守る」活動と 「生きがいと居場所づくり」の活動

住民間のつながる力



コミュニティ意識の醸成

# おでんプロジェクトという取り組み

復興公営住宅における、**交流と自治**に支えられた**住民参画事業**の展開へ

**なぜ、おでんプロジェクトなのか！**

**震災関連死は、人権の問題**

**孤立死・孤独死をなくしていく**

そのためには？

**男性も集える居場所（交流の場）が大事**

**ため息を、一人でつかさせない！**

# おでんプロジェクトという取り組み

復興公営住宅における、**交流と自治**に支えられた**住民参画事業**の展開へ

## なぜ、おでんプロジェクトなのか！

誰もが知っているおでん。屋台も作っていく。地元の素材を活かしたおでんだねも作っていく。住民が居場所を創りだしていく！



NPO法人みんぷく（いわきチーム）の取り組み

# おでんプロジェクトという取り組み

復興公営住宅における、**交流と自治**に支えられた**住民参画事業**の展開へ

## おでんプロジェクト (3月3日現在)



# 熊本学園大学の取り組み



益城町保健福祉センター避難所での熊本学園大学週末カフェ

# 被災地・福島の教訓

コミュニティが崩壊してしまった地域があるということ  
= 人がバラバラになっているということ  
= 寂しいと人は死ぬ

さみしくさせないために、**交流**と**自治**が大切

全国でも同じ課題がある！

**人と人がつながるしくみを！**

# ■ 生命を守る基礎づくり

震災5年目を迎えたいまも変わらない課題



『支援者間での情報の共有』

つまり

- ・だれが
- ・どこで
- ・何を課題として
- ・どんなふうにご覧しているのか

いのちを守る情報の共有を！！

# 終わりに・・・

引き続き、コミュニティ形成や災害に強いまちづくりなど、主体的な住民の中・長期の取り組みと支援が必要になると考えられる。

いままでの災害の教訓がなぜ活かされないのか？ということが災害時に指摘される。教訓が活かされるような、社会システムを構築すべきではないか。

